【アジア・エネルギー安全保障セミナー】
「地政学から考えるエネルギー転換期における天然ガス」
小田原副大臣による開会挨拶

１．歴史的なエネルギーの大転換

●現在、私たちはエネルギーにおける歴史的転換の途中にあります。エネルギーの歴史について少々触れましょう。

●産業革命は、石炭を活用した蒸気機関を手に入れたことで実現しました。その後、エネルギー効率や輸送、貯蔵などの点で有利な石油がエネルギーの主役となりました。20世紀初頭に、時のチャーチル海軍大臣が英国王立海軍の主要燃料を石炭から石油に切り替えたことで転換が決定的となり、その後石油を「支配する」国が国際秩序の主要な影響力、いわゆる「覇権」を持つことになりました。

●1973年の石油ショックは、資源が政治的な武器になることを世界に示しました。それへの対抗策として、石油の備蓄制度の構築と調達先の多様化、天然ガスや原子力といったエネルギー源の多様化、省エネなどが加速しました。

●現在、気候変動問題の対策が喫緊の課題とされてから、脱炭素社会の実現が急がれています。日本も2020年に菅総理が、2050年までに温室効果ガスの実質ゼロ社会を実現すると表明しました。

２．エネルギー転換という重要な課題

●現在進行しているエネルギー転換は、近代以後人類社会が経験する最大のエネルギー転換となるかもしれません。エネルギーにおいて高い影響力をもつ国は、国際秩序においても主要な地位を占めます。また、各国のエネルギー政策の在り方が、エネルギーの依存・被依存関係に影響を及ぼし、国際関係を変えます。外交・安全保障政策上、このようなエネルギー転換の地政学的な意義について考える必要があります。

●エネルギー転換は、経済活動や産業の在り方も変えることでしょう。例えば、戦後日本の豊かさを支えてきた自動車産業の未来はどのようなものになるのか。文化や個人のライフスタイルも変え、新しい社会を創りだすことでしょう。

●その中で、円滑なエネルギー転換の在り方は国際社会の主要な関心事となっています。例えば、私は、３月２３日及び２４日にパリで開催された国際エネルギー機関（ＩＥＡ）の閣僚理事会に出席し、まさにこのテーマについて様々な議論を行ってきました。

●なお、この会議では、戦闘の続くキーウからオンラインで参加されたハルシュチェンコ・ウクライナ・エネルギー大臣が、切実な惨状を訴えるスピーチを行ったほか、私自身も、デムチェンコフ・ウクライナ・エネルギー次官と対面で会談し、現地の様子を直接伺いました。危険覚悟で祖国を守る悲壮な想いに感銘を受けると同時に、胸の潰れる思いがいたしました。また、国家の存亡に関わるタイミングにあっても、未来のエネルギーの在り方について議論することを欠かさない姿勢を目の当たりにし、エネルギー転換という課題の重要性を更に強く感じました。

●その際、フェルナンデス米国務省エネルギー担当次官、ビロルＩＥＡ事務局長、フランスやイスラエルの関係閣僚とも議論を行い、４月１１日には訪日したラカメラ国際再生可能エネルギー機関事務局長と会談しました。現在エネルギーを巡る外交は非常に活発になっています。

３．エネルギー転換とエネルギー安全保障の両立

●脱炭素化に向け国際社会が活発な取組を進める中にあって、今般のロシアによるウクライナ侵略は、エネルギー転換とエネルギーの安定供給の確保、即ち、エネルギー安全保障との両立の重要性を改めて世界に認識させました。

●脱炭素社会を目指す過程で、必要なエネルギーの入手に困難を来すようでは、本末転倒です。暖房がなくては厳しい冬は越えられませんし、安定的な電力供給は生活と経済活動の不可欠な基盤です。生活を守る上で極端なエネルギー価格の高騰は受け入れられません。

●このような懸念が払拭されて初めて、エネルギー転換を推し進められるのではないでしょうか。脱炭素社会を実現するためにも、一辺倒でなく、現実的な、円滑なエネルギー転換を実施していく必要があります。

４．過渡期のエネルギーとしての天然ガス

●本日のテーマを、「エネルギー転換期における天然ガス」としたのは、脱炭素化の過渡期において天然ガスが極めて重要な役割を果たすと考えるからです。

●天然ガスは、既に広く行き渡ったエネルギー源です。温暖化ガス排出量が少ない。また、ガス発電は、発電量が天候に左右され易い太陽光や風力発電を補う調整力を担う観点からも、有用です。さらには水素。二酸化炭素が出ないクリーンな新エネルギーとして注目されています。将来的に大量導入された暁には、既存の発電施設の燃焼器を改修するだけで、天然ガスから水素発電へ切り替えることも可能です。

●これらの特性は、天然ガスが円滑なエネルギー転換のために極めて便利な資源であることを示しております。

５．天然ガスを巡る国際的動き

●今般のウクライナ情勢を踏まえ、ロシアからの化石燃料への依存脱却に向け、我が国を含め国際社会が動き出しています。

●天然ガスの有用性が変わらない、寧ろ高まっている事から、各国が天然ガスの代替調達先の模索を加速化しています。ロシア産に代替する安定供給の確保に向けた取組が既に始まっています。

●ＩＥＡではパネリストとして米国の有力な投資機関、ブラックロック社の幹部が発言。同氏は化石燃料への投資を座礁財産とみなしているとの印象を持ちました。しかし現実的な選択肢を考えると、中長期的な上流開発投資に加え、既存の生産能力や液化設備の強化を含め、いわゆるＥＳＧ投資にも適うものとしての天然ガスに、改めて民間投資が集まる環境の整備が、現在必要であるものと考えます。

６．結びの挨拶

●本日は、私の問題意識にお応えいただける、多様なご経歴をお持ちの方々をお招きしました。活発な議論を楽しみに致します。

（約 2400 字）（了）